

令和4年度

政策提言書

白鷹町議会

令和4年度 政策提言

人口減少、少子高齢化、新型コロナウイルス感染症対策、自然災害、物価高騰等への対応策が求められる中、第6次総合計画に基づき、「人、そして地域がつながり 輝き続ける潤いのまちづくり」の実現に向け、併せて「まち・ひと・しごと創生」に邁進していく必要があります。

白鷹町議会として、令和3年度の決算審議や昨今の所管事務調査等を踏まえ、次の通り政策提言します。

急激な人口減少に歯止めをかけ、安全・安心のまちづくり、魅力あるまちづくりについては特に、荒砥高校の存続、地域コミュニティの強化、西廻り幹線道路の早期着工、国道348号の再整備、移住・定住の推進、森林・林業再生のための緑の循環システムの構築等については、これまで同様推進されるよう提言し、加えて、本年度は、ポストコロナへの対応、災害復旧のあり方や喫緊の解決・対応が課題となっている点等に特化して提言します。そして、本提言が来年度予算に具体的に反映されるよう望みます。

令和4年12月2日

白鷹町長 佐藤 誠 七 殿

白鷹町議会議長 今野 正 明

1. ポストコロナの地域づくりについて

地区コミュニティセンターや各分館での事業はコロナ感染対策をとりながら徐々に再開されている。ポストコロナを見据えて住民の地域づくりに対する意識が薄れていくことがないように地域づくり推進交付金の継続による事業参加意識の醸成を図ること。

2. 第2期健康と福祉の里構想におけるサービス提供について

第2期健康と福祉の里構想は令和4年度で策定完了となるが、今後サービス提供を進め、施設機能を維持していくうえで、維持管理費も含めた長期的な視点を持って事業にあたること。

3. 町民サービス向上に向けたデジタル化推進について

町民サービスの向上につながるデジタル化推進に向けては、マイナンバーカードの取得、普及が必須となってくる。全ての世代が利用し、その効果を最大限に発揮できるよう取り組みを進めること。

4. 先を見据えた観光のあり方について

近年の観光の形態は、コロナ禍も相まって個人・小グループでの旅行が増加し、携帯情報端末を活用し、個人の好みや興味や関心にあわせた行動をとることができるようになってきている。白鷹町の観光交流の課題を点検しながら、観光客を呼び込むための先を見据えた基本方針とそれに基づいた具体的な施策を検討すること。

5. 当町の持続可能な農業のビジョンについて

農業を取り巻く状況は、農業者の高齢化や減少、中山間地での農地荒廃が進んでおり、地域の農地が適切に利用されなくなることが懸念される。加えて、ウクライナ危機などを背景に飼料や肥料、燃料などの価格が高騰している。今後においても、当面の支援策を継続すると共に、持続可能な農業にするための施策を検討すること。

6. 当町の商工業への施策について

人口減少や買い物の形態が変化したことにより、地元の小売店の事業継続が厳しくなり後継者が育ちにくい。企業においては人手不足の状況があり当町においても外国人の労働者が重要な労働力となっている。これらを踏まえ商工業の実態を把握するとともに、支援策を検討すること。

7. 災害復旧のあり方について

近年、当町においても自然災害が頻発している。豪雨災害の箇所については同じ箇所で度重なって被災している箇所もある。地域の方や受益者の方などの意向を汲みながら、予防・減災の視点で現況復旧よりも進めた対応や、早い実施ができるよう事務の簡素化などを国・県に強く働きかけること。